



江田島市総合計画

自然との共生・都市との交流による
『海生交流都市』えたじま

平成19年3月
江田島市



はじめに

江田島市は、平成16年(2004)年11月1日、江田島町、能美町、沖美町及び大柿町の4つの町が合併して誕生しました。

新しいまち・江田島市が、しっかりとした地域経営のもとに、充実した市民サービスを提供し、地域の個性や特色を継承・創出していくためには、行財政運営全般にわたる方向づけが必要となります。

地方自治を取り巻く状況を見ますと、地方分権への流れ、厳しい財政状況、安全・安心に関する社会情勢、過疎化と少子高齢化、人口減社会への移行、循環型社会の構築など、対応しなければならない多くの課題があります。

こうした状況の中、江田島市が発足した21世紀のはじまりの時期において、まちづくりを方向づけ、施策を総合的かつ計画的に展開していくため、新しい船出を方向づける計画「江田島市総合計画」を策定しました。

この計画をもとに、本市の都市像である「自然との共生・都市との交流による『海生交流都市』えたじま」の実現に向けて、まちづくりを進めて参ります。

今後、行財政運営におきましては、市民の目線に立ち、参加と連携による協働のまちづくりを基本としながら、さまざまな課題の解決に向け、各施策を着実に推進していきたいと考えております。国、県、市議会をはじめ関係機関のご支援と、市民の皆さま方のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

この計画の策定に当たり、ご尽力を賜りました江田島市総合計画審議会各委員並びにご協力をいただきました関係団体、市民の皆さま方に心から感謝申し上げます。

平成19年3月

江田島市長 曾根 薫

目 次

第1編 序 論

第1章 計画策定の趣旨と基本姿勢	2
第1節 計画策定の趣旨	2
第2節 計画策定の基本姿勢	3
第2章 計画の役割と位置づけ	4
第1節 計画の性格と役割	4
第2節 計画の目標年次と計画期間	5
第3節 計画の構成	5
第3章 江田島市の概況及び計画条件と課題	6
第1節 江田島市の概況	6
第2節 計画条件と主要課題	11

第2編 基本構想

第1章 まちづくりの基本理念	16
第1節 目標とする都市像と基本テーマ	16
第2節 まちづくりの展開方向	18
第2章 計画の基本指標	19
第1節 人口フレーム	19
第2節 就業フレーム	21
第3章 土地利用構想	22
第1節 江田島市の目指す都市構造	22
第2節 長期的戦略構想への対応	25
第4章 施策の方向	27
第1節 豊かな教育・文化を創造し、人が輝くまちづくり	28
第2節 元気な地域を育てるまちづくり	30
第3節 健康で安心して暮らせるまちづくり	32
第4節 安全で快適な生活環境が整ったまちづくり	34
第5節 しっかりとした都市の基盤を備えたまちづくり	37
第6節 交流と連携による交歓のまちづくり	39
第5章 計画の推進	40
第1節 市民参加を基本としたまちづくりの推進	40
第2節 計画的で効率的な地域経営の推進	40
第3節 広域的な連携の推進	40

第3編 基本計画

第1部 主要プロジェクト - えたじま・海生交流プロジェクト	
第1章 7つの「えたじま・海生交流プロジェクト」の設定	42
第2章 えたじま・海生交流プロジェクトの展開	44

第2部 部門別計画	
第1章 豊かな教育・文化を創造し、人が輝くまちづくり	60
第1節 生きる力の育成と個性豊かな学校づくり	60
第2節 生活の基盤となる豊かな家庭づくり	64
第3節 学びつつ生きる教育力豊かな地域づくり	66
第4節 人権を尊重し、人間性豊かな人づくり	69
第5節 男女共同参画社会の形成	71
第2章 元気な地域を育てるまちづくり	73
第1節 産業の担い手の確保と就労機会の拡充	73
第2節 農業・漁業の振興	75
第1項 農業の振興	75
第2項 漁業の振興	79
第3節 商工業の振興	82
第1項 工業の振興	82
第2項 商業の振興	85
第4節 観光・レクリエーションの振興	87
第5節 U・ターンと交流の促進	91
第3章 健康で安心して暮らせるまちづくり	93
第1節 保健・医療・福祉サービスの総合的な提供	93
第2節 健康づくりの推進	95
第3節 安心して暮らせる豊かな高齢社会の形成	100
第4節 子育て環境の充実	104
第5節 障害者福祉の推進	108
第6節 地域福祉の推進	111
第4章 安全で快適な生活環境が整ったまちづくり	114
第1節 循環型社会の形成	114
第1項 環境にやさしい社会の実現	114
第2項 廃棄物処理対策の推進	117
第2節 自然環境の保全・再生・活用	119
第3節 海と島と文化が彩る景観づくり	121
第4節 災害に強いまちづくり	123
第1項 消防・救急体制の充実・強化	123
第2項 防災・危機管理体制の整備	125
第5節 暮らしの安全と安心の確保	128
第1項 交通安全対策の推進	128
第2項 防犯対策の推進と子ども・高齢者等の安全確保	130
第3項 消費生活の安定と向上	132
第4項 健康被害の未然防止	134
第6節 住宅・住環境の整備	136

第7節 快適な生活環境の整備	138
第1項 公園緑地・レクリエーションの場の整備	138
第2項 上下水道の整備	141
第5章 しっかりとした都市の基盤を備えたまちづくり	144
第1節 計画的な土地利用と拠点・ゾーンの形成	144
第1項 計画的な土地利用の推進	144
第2項 多彩な拠点・ゾーンの形成とネットワーク化	146
第2節 道路網の整備	149
第3節 港湾の整備	151
第4節 公共交通体系の整備	153
第1項 海上交通の充実・強化	153
第2項 バス交通の確保・充実	155
第5節 情報通信基盤の整備	157
第6章 交流と連携による交歓のまちづくり	159
第1節 交流と連携による豊かな地域社会づくり	159
第2節 広域的な連携と交流の推進	161
第3節 国際的な視野に立った都市の形成	163
第3部 計画の推進	
第1章 市民参加を基本としたまちづくりの推進	166
第2章 計画的で効率的な地域経営の推進	168
第3章 広域的な連携の推進	170
資料編	
江田島市総合計画審議会	174
策定体制と経緯	177
まちづくりアンケート調査結果の概要	180

裏表紙の絵

<左：小学生の部>

上から順	
久保河内 晃さん	(最優秀賞：江田島市立三高小学校5年生)
白地 将大さん	(市長賞：江田島市立鹿川小学校3年生)
田中 萌恵さん	(教育長賞：江田島市立中町小学校4年生)
山田 帆乃花さん	(支部長賞：江田島市立高田小学校3年生)

<右：中学生の部>

上から順	
藤本 冴さん	(最優秀賞：江田島市立能美中学校1年生)
向井 里歩さん	(市長賞：江田島市立大柿中学校3年生)
安尾 久則さん	(教育長賞：江田島市立大柿中学校3年生)
津川 夏美さん	(支部長賞：江田島市立大柿中学校3年生)

平成18年度に実施した「絵画コンクール - 未来の江田島市・夢プラン - 」(主催：社団法人日本建築学会中国支部，共催：江田島市，江田島市教育委員会)の入賞作品

序 論

第1章 計画策定の趣旨と基本姿勢

第1節 計画策定の趣旨

江田島市は、平成16(2004)年11月1日、江田島町、能美町、沖美町及び大柿町の4つの町が合併して誕生しました。

この新しいまちが、しっかりとした地域経営のもとに、充実した市民サービスを提供し、江田島市やそれぞれの地域の個性や特色を継承・創出していくためには、行財政運営全般にわたる方向づけ(基本構想)が必要となります。

この方向づけについては、地方自治法第二条第4項に「市町村は、その事務を処理するに当たっては、議会の議決を経てその地域における総合的かつ計画的な行政の運営を図るための基本構想を定め、これに即して行うようにしなければならない。」と明記されています。

また、基本構想で示した方向づけに基づいて、まちづくりを進めていくためには、各部門における具体的な施策を体系的に明らかにすること(基本計画)が大切です。さらに、具体的な施策を実施するためには、実施時期等を検討し、年度ごとの取組や事業費を整理した計画(実施計画)が求められます。

加えて、計画を取り巻く状況を見ると、地方分権への流れ、厳しい経済・財政状況、安全・安心に関する社会情勢、情報公開と個人情報の保護、過疎化と少子高齢化、循環型社会の構築など、対応しなければならない様々な課題があり、こうした面からも計画を策定する必要性が生じています。

このため、これまでのまちづくりの実績と課題を踏まえながら、江田島市が発足した21世紀のはじまりの時期において、まちづくりを方向づけ、施策を総合的かつ計画的に展開していくため、新たな船出を方向づける計画「江田島市総合計画」を策定するものです。

第2節 計画策定の基本姿勢

目指す計画（新たな船出を方向づける計画）の基本的な内容を，船に見立てて，取り組む基本姿勢を示します。

1 しっかりした計画(船)を目指す - 船体・旗・積み荷の一体化 -

(1) 船体 :まちの基盤(づくり)

江田島市を形づくる島と海，そこに息づく歴史文化，暮らし，産業などの地域資源や特色，そして人々の力(江田島市民の力，幅広い人的ネットワーク)をまちの基盤ととらえ，さらにそれらを高めながら，まちづくりを展開していくことを目指します。

(2) 旗 :方向性の明確化

共有される都市像(将来像)やテーマ・柱を見いだし，総合計画の方向性を明確にします。

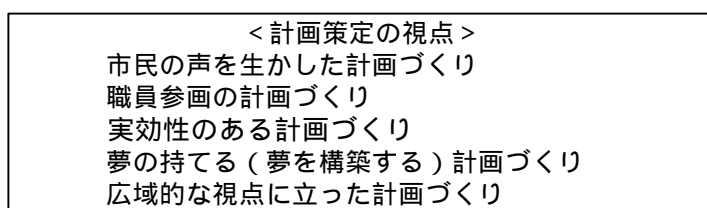
(3) 積み荷 :旗印を具体化する施策

旗印（将来像など）を具体化するための施策，旗印につながる（旗印をイメージできる）施策を検討します。

2 推進力を生み出す(計画策定プロセスの重視)

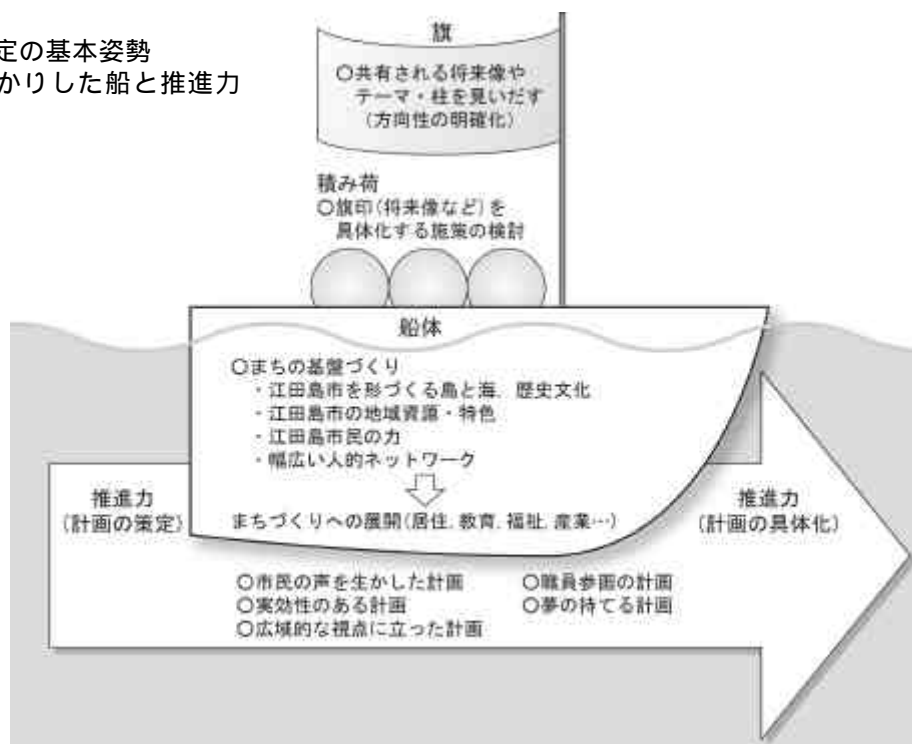
計画策定プロセスにおいて，多様な参加や問題意識・目的意識の共有は，しっかりとした計画(船)をつくることにつながると同時に，計画の具体化においても大きな力となります。

こうした視点のもと，次の5点に留意して計画を策定します。



計画策定の基本姿勢

- しっかりした船と推進力



第2章 計画の役割と位置づけ

第1節 計画の性格と役割

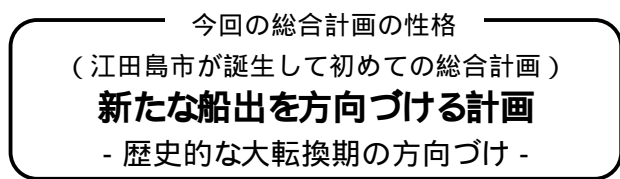
本計画は、新たに発足した江田島市において最初の総合計画であり、歴史的な大転換期における新たな船出を方向づけるものとなります。

内容としては、まちづくりの基本理念や方向、主要な施策などを明らかにするものであり、行財政運営・地域経営及び関係機関などとの連携・協力の基本的な指針となるものです。

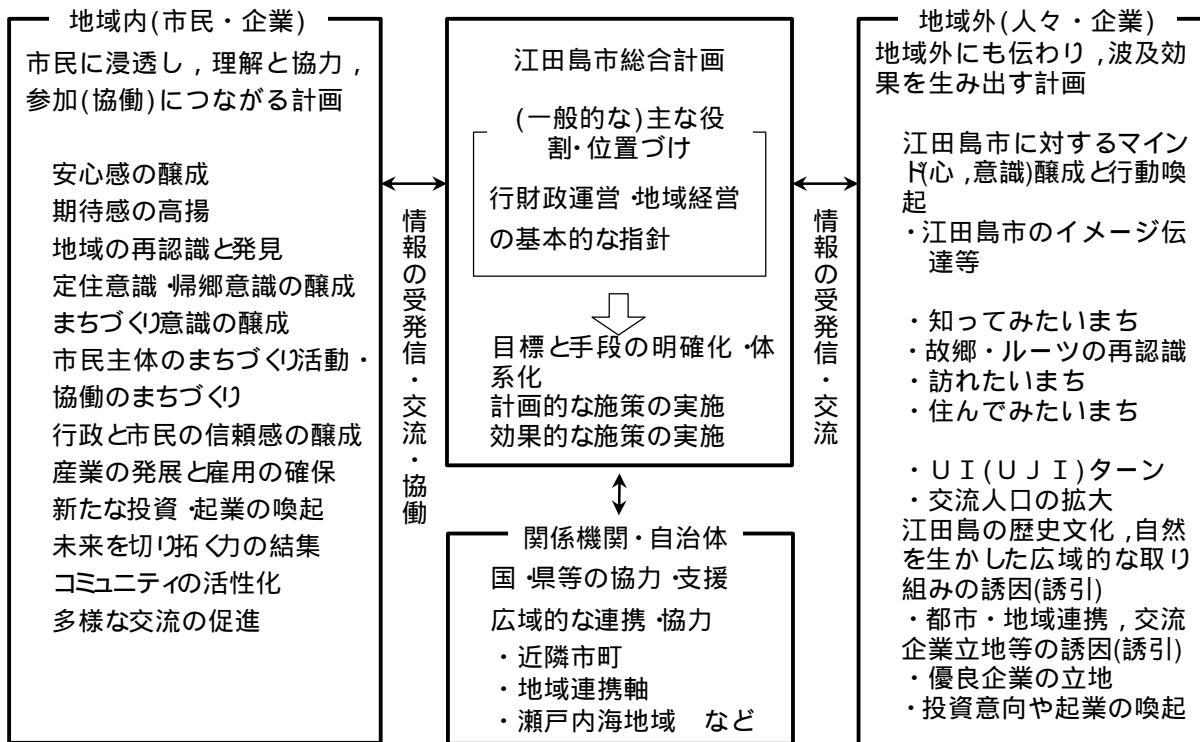
また、市民等に対し、江田島市が取り組もうとしている施策を伝えるものであるとともに、市民等に浸透し、まちづくりへの理解と協力、参加と協働のまちづくりなどへとつながることを意図するものです。

さらに、情報の発信を図る中で、江田島市の市域を超えて、人々・企業等の江田島市やまちづくりに対する意識・関心を呼び起こし、交流人口の拡大やU・Iターン(U・J・Iターン)の促進、投資の拡大などに発展することを期待するものです。

< 計画の性格と役割 >



総合計画の役割・期待



U・J・Iターン

移住の行動パターンを アルファベットの形にたとえたもの。

U：地方出身の都市部の居住者が、出身地に戻り定職に就くこと。

J：地方出身の都市部の居住者が、出身地に近い都市などに移住して定職に就くこと。

I：もともと都市部に住んでいた人が、地方に移住して定職に就くこと。

第2節 計画の目標年次と計画期間

本計画の目標年次は、平成26(2014)年とします。

計画期間は、平成17(2005)年度から平成26(2014)年度までの10年間とします。

第3節 計画の構成

総合計画は、基本構想、基本計画、実施計画によって構成されます。

このうち、総合計画審議会での審議などを通じて、長期計画(10年間)である基本構想、基本計画を策定しました。

基本構想

江田島市の都市像とその実現のためのまちづくりの展開方向などを明らかにするものであり、基本計画、実施計画の基礎になります。

基本計画

基本構想を達成するために具体的な施策などを体系的に定めるものです。

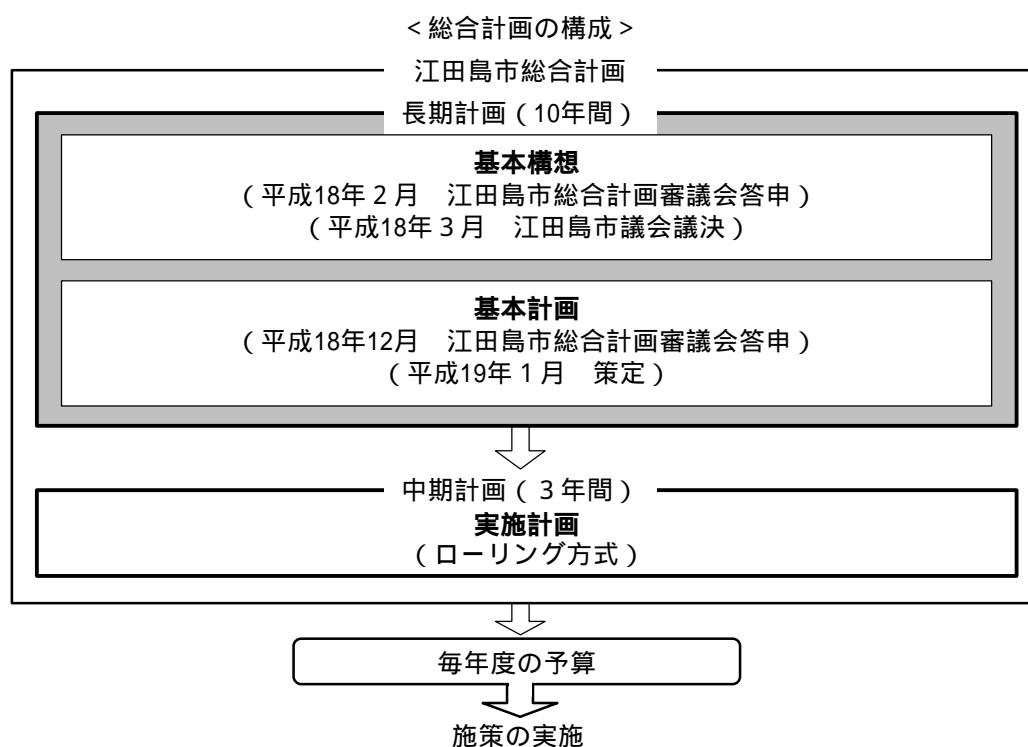
社会状況の変化や計画の進捗状況を踏まえるため、5年後に見直しを行います。

実施計画

基本計画の実施のために必要な事務事業を明らかにする中期計画です。実施計画の計画期間は3年間とし、毎年度ローリングを行い、計画の基本性を保持しながら、現実に即した弾力的な対応を図るものです。

基本構想、基本計画をもとに、別途作成します。

なお、計画書として編集するに当たっては、計画策定の趣旨や課題等を序論としてまとめています。



ローリング

計画を実施しながら、毎年定期的に計画と実績などについて検討を行い、必要に応じて計画を見直す方法。

第3章 江田島市の概況及び計画条件と課題

第1節 江田島市の概況

1 位置と交通条件

江田島市は、広島県南西の広島湾に浮かぶ江田島、能美島とその周辺に点在する島々で構成されている、面積100.94km²のまちです。

広島市からは海上約7.5km、呉市からは海上約6kmの位置にあり、呉市とは、音戸大橋・早瀬大橋の両架橋により結ばれ、実質的には陸続きとなっています。

江田島市の道路網は、国道487号と主要地方道江田島大柿線が南北の軸となり、それとつながって主要地方道高田沖美江田島線、一般県道大君深江線・石風呂切串線などが沿岸部を中心に走り、狭い区間もありますが、島内を周遊できる構成となっています。

江田島市へのアクセスは、呉市から音戸大橋・早瀬大橋を通るルートと、広島市及び呉市と結ぶ海上交通があり、市内ではバス路線によって主な港や市街地・集落地が結ばれています。

江田島市の位置と交通条件



航路は平成19(2007)年1月現在

2 歴史的条件

江田島、能美島には、先史時代から人々が定住し、主として漁業や農業を営み、古代、中世、近世へと暮らしと文化を積み重ね、引き継ぎながら、地域を形づくってきたと考えられます。

このような地域に明治21(1888)年、海軍兵学校が東京・築地から移転してきました。それから昭和20(1945)年の終戦に至るまで、海軍将校揺籃の島として広く知られ、昭和31(1956)年からは海上自衛隊第1術科学校などの自衛隊施設が立地しています。また、昭和42(1967)年には国立江田島青年(現：江田島青少年交流の家)の家が設置され、昭和48(1973)年には早瀬大橋が完成するなど、広域的な拠点機能や交流条件を高めながら、今日の江田島市が築かれています。

江田島市の沿革をみると、海軍兵学校の移転した明治21(1888)年には16の村がありました。それが翌年に行われたいわゆる明治の大合併で10の村となり、さらに編入や合併、町制施行を行い、昭和26(1951)年に江田島町、昭和29(1954)年に大柿町、昭和30(1955)年に能美町、昭和31(1956)年に沖美町が誕生しました。そして、平成16(2004)年11月1日、これら4町が合併し、江田島市としてスタートしています。

揺籃(ようらん)

ゆりかご。転じて、物事の発展の初期の段階。

3 自然的条件

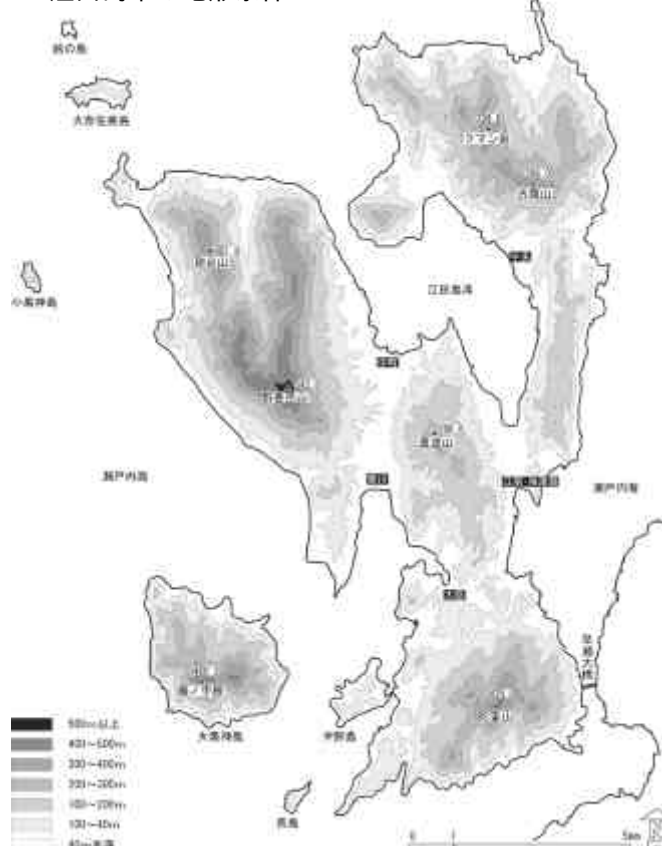
(1) 地形

江田島市は、広島湾の南に位置する島であり、変化に富んだ海岸線や平地、丘陵地、山地などの多様な地形条件となっています。

このうち、野登呂山(542.0m)、陀峯山(438.0m)、砲台山(401.8m)、クマン岳(399.8m)、古鷹山(394.0m)などを中心とした山地部や、その山麓付近の丘陵地が面積の多くを占めています。

その中で、まとまった平地は、江田島町の中央、江田島町と大柿町の境界付近の江南・飛渡瀬、能美町の中町・鹿川、大柿町の大原などに広がっています。

江田島市の地形条件

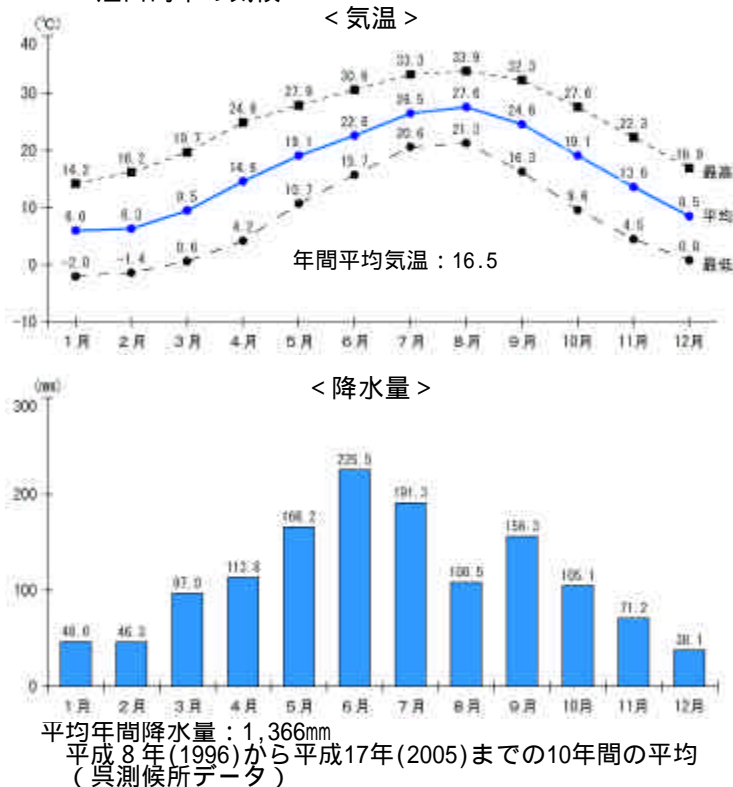


(2) 気候

江田島市は、瀬戸内の穏やかな気候にはぐくまれており、年平均気温は16.5 と暖かく、平均年間降水量は1,366mmと比較的小雨となっています。

また、月別最高気温の平均は、7月、8月の真夏だけでなく、6月及び9月も30 を超えています。

江田島市の気候



4 社会的条件

(1) 人口

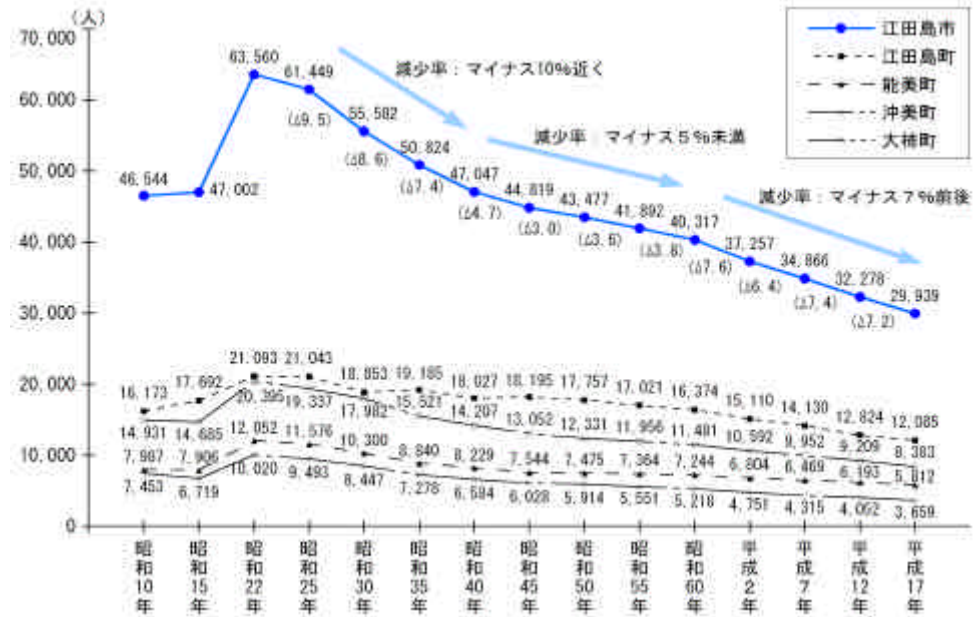
人口の推移

江田島市の人口は、平成17(2005)年現在29,939人(国勢調査)となり、3万人を割り込んでいます。

人口の推移をみると、昭和22(1947)年の63,560人をピークに、その後減少を続けています。

国勢調査間(5年)の減少率は、昭和25(1950)年から昭和40年(1965)年にかけては、毎回マイナス10%近くと大幅に減少し、昭和40(1965)年から昭和60(1985)年にかけては、毎回マイナス5%未満と減少は緩やかとなり、その後は毎回マイナス7%前後で推移しています。

江田島市の人口の推移

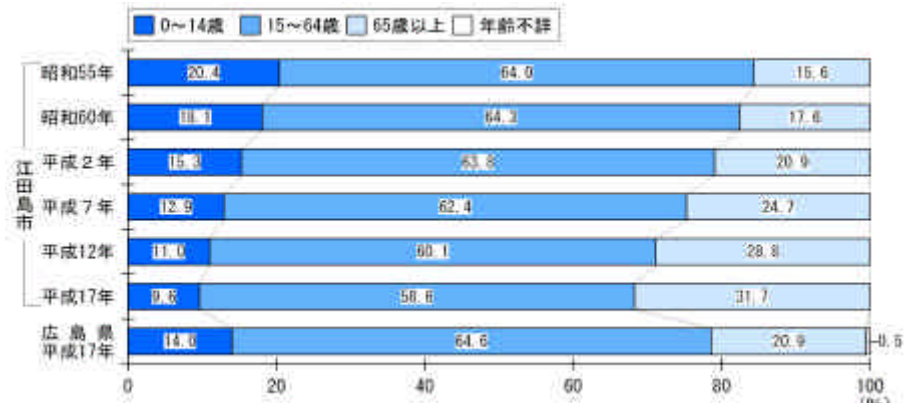


資料：国勢調査
()内は国勢調査間の減少率

年齢構成

江田島市の年齢3区分別人口構成は、平成17(2005)年現在、年少人口(0~14歳)9.6%、生産年齢人口(15~64歳)58.6%、老年人口(65歳以上)31.7%となり、広島県平均(順に14.0%、64.6%、20.9%)と比べると、特に老年人口の割合が高く、全体的にはより少子高齢化が進んだ状況にあります。

年齢3区分別人口構成



資料：国勢調査

(2) 生活圏の構成

江田島市に常住する就業者は、平成12(2000)年において15,527人であり、その80%近くが市内で就業しています。主な市外の通勤先としては、広島市(10.8%)、呉市(6.5%)となっています。

また、江田島市に常住する15歳以上の通学者は、平成12(2000)年において1,439人であり、その34.1%は市内に通学していますが、残りの65.9%、約3人に2人は市外に通学していることになります。主な市外の通学先としては、広島市(44.3%)、呉市(18.4%)となっています。

通勤の状況



通学の状況



資料：平成12年国勢調査
江田島市以外の通勤・通学先は上位3位まで
矢印の太さは構成比をイメージ

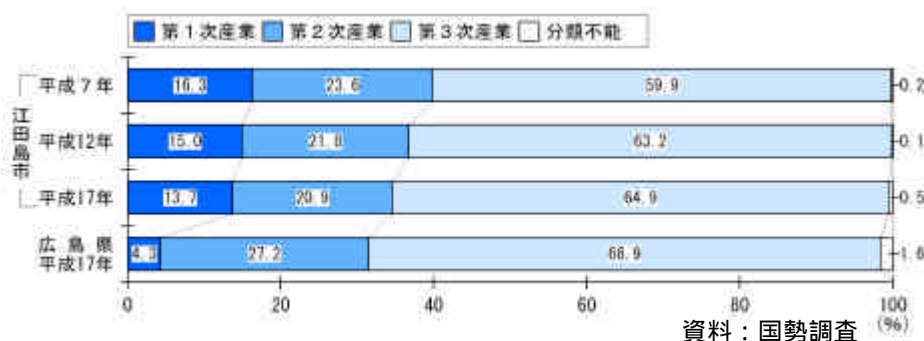
5 経済的条件

(1) 就業構造

江田島市の産業別就業者数の構成は、平成17(2005)年において、第3次産業が64.9%(9,440人)と最も多く、次いで第2次産業20.9%(3,043人)、第1次産業13.7%(1,986人)となっています(分類不能68人、合計14,537人)。

これを広島県平均と比べると、第1次産業の割合が高く、第2次産業の割合が低く、第3次産業はほぼ同様の割合となっています。

産業別就業者数の構成



(2) 産業

江田島市の総生産は、平成15(2003)年度において約790億円であり、産業別ではその71.2%を第3次産業が占め、第2次産業は28.6%、第1次産業は6.9%となっています。広島県平均と比べると、第1次産業の割合が高く、第3次産業の割合が低く、第2次産業はほぼ同様の割合となっています。

これを平成10(1998)年度と比べると、江田島市の総生産は8.8%ほど減少し(広島県平均はマイナス2.4%)、産業別では、第2次産業がマイナス23.1%と大幅に減少し、第1次産業及び第3次産業もやや減少しています。

特産品としては、カキをはじめとした海産物、ミカン、キュウリ、トマトなどの農産物、キクなどの花きに代表されるように、質の高い一次産品の産地です。また、一次産品を加工した特産品もあります。こうした、一次産品や産業は、安全や本物の志向、スローフードの流れの中で、様々な可能性を持っているといえ、6次産業への発展も期待できます。

産業別総生産の推移

区分	総生産 (百万円)	第1次産業		第2次産業		第3次産業		輸入税等		人口1人 当たり 総生産 (千円)	労働 生産性 (千円)	
		構成比 (%)	構成比 (%)	構成比 (%)	構成比 (%)	構成比 (%)	構成比 (%)					
江田島市	平成10年度	87,106	5,475	6.3	29,577	34.0	56,957	65.4	-4,901	-5.6	2,610	6,013
	平成15年度	79,440	5,449	6.9	22,745	28.6	56,535	71.2	-5,288	-6.7	2,573	5,686
	増加率	-8.8	-0.5		-23.1		-0.7		7.9		-1.4	-5.4
広島県	平成10年度	11,220,823	102,469	0.9	3,295,641	29.4	8,448,484	75.3	-625,771	-5.6	3,883	7,536
	平成15年度	10,956,630	83,806	0.8	3,081,912	28.1	8,502,764	77.6	-711,851	-6.5	3,806	7,551
	増加率	-2.4	-18.2		-6.5		0.6		13.8		-2.0	0.2

資料：広島県市町村民所得推計結果報告

データは平成18年度における推計結果(毎年度の推計作業によって、過去のデータも変化する)

第2節 計画条件と主要課題

江田島市の主要課題や都市像(将来像)、まちづくりの展開方向などを検討するに当たって、その前提となる計画条件を次の3つの視点から大きく整理します。

江田島市の特色・まちづくりの資源

江田島市のまちづくりの留意点・問題点

江田島市の広域的な位置づけ・役割

また、総合計画の策定にかかわる江田島市の主要課題は、計画条件やまちづくりアンケート調査、計画を取り巻く社会的潮流を踏まえて検討し、6つの主要課題に集約しています。

1 江田島市の個性と特色の継承・創出

江田島市が誕生して間がありませんが、だれもがイメージできたり、知っていたりする江田島市の個性や特色を生み出し、育てていくことが大切です。

このため、海と島の自然や歴史文化の活用、固有の美しい景観や先導的な循環型社会の形成、新たな発想による魅力づくりなど、様々な検討を通じ、市民みんなが誇りを持って、江田島市を紹介できるような個性や特色を形づくっていくことが求められます。また、それぞれの地域に息づく歴史文化やコミュニティ活動などを継承し、さらに育てていくこと、そして個々の魅力や特色をつないで生かしていくこと(フィールド・ミュージアム)が、江田島市の魅力づくりにとっても必要です。

2 過疎化・少子高齢化の中での定住と交流促進

江田島市も人口の減少と少子高齢化の傾向が、国や広島県平均を超えて進んでおり、地域の活力の低下などが懸念されるとともに、小さな集落では、コミュニティの維持などにも影響してくると考えられます。

このため、快適な生活環境の整備や働く場の確保、魅力ある環境づくり、子育て環境の充実、住まい・生活情報の受発信など、人口流出の抑制や交流人口の増大、U・Iターンの促進などに取り組む必要があります。また、江田島市の魅力や住みよさを分かりやすく伝えアピールすることや、取り組む体制づくりなどが求められます。

総生産(市町村内総生産)

新たに生産された付加価値の総量について、経済活動別生産主体(事業所)ごとに貨幣価値で評価したもの。

輸入税等

輸入税(関税と輸入品商品税)と控除分の帰属利子等からなる。

労働生産性

就業者1人当たりの総生産。

スローフード

効率やスピードを重視した食や、それからくる生活への反省及び「ファーストフード」への対立概念・活動としてイタリアでスタートした取り組み。日本でも、各地で郷土食や地域の食材の重視、地産地消、日本酒の再評価など、スローフードにかかわる取り組みがなされている。

6次産業

1次産業である農林水産物の生産、1次産品の加工・製造等の2次産業、さらに、流通販売や観光農園、体験農園、農家民宿等の3次産業を組み合わせた新たな総合的産業をいう。1次+2次+3次=6次

フィールド・ミュージアム

野外博物館。地域を博物館と見立てたまちづくり。

江田島市の自然や歴史文化、観光・レクリエーション施設、景観、産業などの価値や魅力を再発見、再評価しながら、市民や企業等の協力と参加のもと、個々の資源の活用や魅力づくりに取り組むとともに、それらをコースやテーマなどでつなぎ、観光・レクリエーションや体験学習、健康づくりなどの場として多様に活用していくことが考えられる。

3 健康でいきいきと暮らし、人が輝く環境づくり

だれもが尊重され、健康で安心して暮らせるまちを目指すことは、まちづくりの基本であり、一人ひとりが輝くことは、暮らしの豊かさにつながり、未来を切りひらく力でもあります。

このため、人権教育の推進や充実した保健・福祉・医療サービスの提供、安全な環境づくりを進めるとともに、豊かな教育・文化の創造などに取り組む必要があります。また、江田島市の自然や歴史文化などを生かした体験学習や交流の場づくり、安全で豊かな食文化の継承と創造などを通じ、穏やかな気候と海に包まれた、健康でいきいきと暮らせるまちとしての特色づくりも期待できます。

4 地域経済の元気づくりと働く場の確保

江田島市の地域経済は、就業者数の減少や総生産の停滞など、厳しい状況となっています。一方で、海産物や果物、野菜、花きなどの質の高い一次産品の産地であり、さらに生産性を高めることが期待できます。

このため、関係機関と連携しながら、農業・漁業、商工業、観光・レクリエーションの振興を図るとともに、6次産業の育成など、産業間のつながりを強化することも必要です。その中では、産業を担い、地域を支える担い手の確保・育成、U・Iターンを促進するための働く場の確保や起業しやすい条件づくり、交流人口の増大なども大切になります。

5 市民参加と協働のまちづくり

まちづくりは、行政だけで行うことはできず、市民の目線に立って、地域の担い手である市民や企業、各種団体・NPO等の理解と協力を得ながら、連携して取り組むことがまちづくりを推進する大きな力となります。

このため、行政に対する理解と信頼を得る努力を積み重ねながら、行政・市民・企業等がそれぞれの役割と責任を自覚する中で、協働の仕組みを構築し、地域の様々な課題への対応や魅力づくりを進めていく必要があります。また、市民等がまちづくりの様々な場面や多様な交流活動に参加しやすい環境を確保するとともに、幅広い人的ネットワークや協力体制づくりに努めることが大切です。

6 地方分権への対応と基礎自治体としての基盤強化

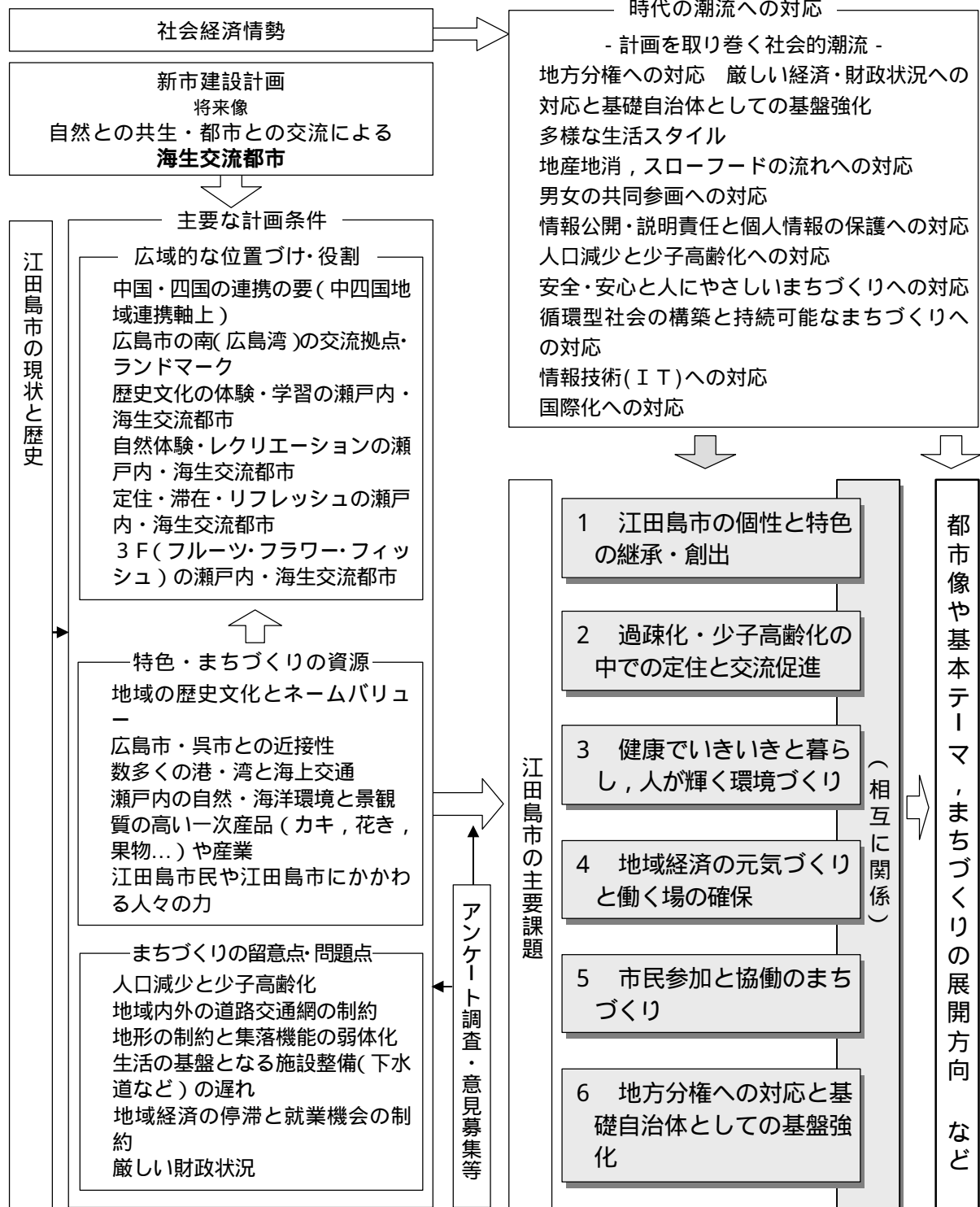
厳しい財政状況や地方分権、地域間競争の中で、地域の選択と責任に基づく主体的なまちづくり、地域の個性と魅力の創出が求められています。

このため、厳しい財政状況などを踏まえながら、様々な行政課題と地方分権に対応できる、基礎自治体としての基盤強化と効率的な行財政運営を図っていく必要があります。また、市民や企業、NPO等のまちづくりへの協力と参加、協働、さらには周辺自治体などと連携することも大切です。

NPO（Non Profit Organizationの略）

民間非営利組織。継続的、自発的に社会貢献活動を行う、営利を目的としない団体の総称。

計画策定に向けた主要課題の設定



海生交流都市
新市建設計画で掲げた江田島市の将来像。海(自然)との共生, 都市との交流を進める中で, 魅力ある住みよい都市の創出を目指している。

ランドマーク
地域の目印。ある地域や場を特徴づける景観要素。

3F
江田島市の代表的な生産物であるフルーツ・フラワー・フィッシュの頭文字。

ネームバリュー
名前の持つ価値。名声。

